

【第144回対策本部会議】 10月21日

健康福祉部長／直近1週間の感染者数は、200人台で推移。

本日の感染者数は206人、入院者数は65人、病床使用率は11.3%、うち中等症者は24人、重症者は1人。ホテル療養者が33人、ホテル使用率は6.7%。

直近2か月間の1週間ごとの推移を説明する。ピーク時は、お盆期間の1週間で、感染者が1万4,663人と1日3,000人近く確認されていた。そこから毎週下がり、1,200人台まで減少。しかし、今週は1,400人台に戻った。3連休や、最近の冷え込みで、室内の換気が減ったことが影響していると推察している。

年代別の感染者の割合は、20代以下が4割、40代以下が7割、高齢者が1割程度で、大きな変化はない。

病床使用率は、感染者の増減と1週間程度ずれて影響が出てくる。12日には、112日ぶりに1桁となり、そのまま7日間連続で1桁を記録した。その後、19日からは再び10%台となった。

海外で新たな変異株も出ており、動向を注視したい。引き続き、重症化リスクの高い高齢者への感染拡大防止対策にも取り組む。県民の皆様には、手洗い、手指消毒、換気などの基本的な感染防止対策への取り組みをお願いします。

ワクチン接種調整チームリーダー／昨日、国の審議会で、オミクロン株対応ワクチンの接種間隔が、5か月から3か月に短縮することが了承され、本日から3か月間隔での接種が可能となった。該当者には、順次、市町から接種券が届く。3～4回目の接種券でも接種できるので、ぜひ検討してほしい。

接種間隔の短縮に伴い、希望者の増加が予想される。県は市町を支援するため、佐賀県医療センター好生館にオミクロン株、BA.5対応ワクチンの接種会場を設置する。11月11日～12月17日の、金曜日、土曜日の12日間。金曜日は18～21時、土曜日は9～12時。対象者は、県内在住・在勤・在学者で、3～5回目の接種券を持つ18歳以上の全ての人。11月初旬から予約を開始する。詳細は、県のホームページ等でお知らせする。

新型コロナと季節性インフルエンザの両ワクチンは、同時接種も可能。年末年始、人の動きが活発になると予想される。年内に両ワクチンの接種の検討をお願いします。

知事／2年半ぶりに、フィンランドに出張してきた。マスクをしている人が、ほとん

どいなかった。消毒液等は置いてあるが、コロナ前の日常が戻っていた。世界の趨勢を考え、コロナと折り合いを考えなければと思った。

フィンランドの大学では、日本人は意見交換しようと話をして、必ず「持ち帰る」と答えると指摘された。その場で問題解決の議論をしないが、佐賀県は違いますねと。惰性のまま現状を変えられないことが怖い。その時々に応じ、起きている事象を的確に対策していくことが大事。懸案事項も含め、コロナとの付き合い方を検討しないといけない。政府は、的確に対応してほしい。

感染者数は、下げ止まりで横ばい。約5人に1人が感染している状況は、16日前と変わらない。20歳代以下の感染者は、3人に1人。若い人の既感染者が増えたが、感染しても症状が弱いので、ワクチン接種がなかなか進んでいない。それらもあり、感染者が0人になるのは難しい。感染者数が下がりきらないので、ワクチン接種をしてほしい。

BA.5対応ワクチンには、重症化リスクの回避と予防効果もある。コロナはまだ続いているが、必要以上に恐れず、県民が一丸となって対応していければと考えている。

今週末には佐賀さいこうフェス、11月には唐津くんちやバルーンフェスタが開催される。コロナとの折り合いのつけ方が試される時期。感染症対策をしつつ、イベントを楽しんでほしい。

2年半もの間、変わらず努力を続けている医療従事者の皆さんと、ワクチン接種など、現場で作業を続けている皆さんに感謝申し上げる。